



大日本全國工勸農義社設立御願書

2654

114
A1301

大正十一年四月
隈侯爵贈



日本全國工勸農義社設立御願書

我^三府縣ノ有志者五千^七貳百^六五十四^三名ノ總代鄙輩

誠恐誠惶頓首々々謹テ懇願ス

夫レ我國開闢以來農業ヲ以テ國本ト為スハ今更鄙輩ノ
謀々ヲ待タスレテ明カナリ然ルニ在昔數百年来士農業
ヲ異ニシ昌平ノ久シキ上下交々偷安ニ流レ遂ニ終ニ農業
上ニ退步ヲ釀シ今ヤ却テ歐米各國ノ下流ニ出ントスルカ
如レ此ニ於テ乎畏クモ我

天皇陛下早ク斯ニ見賜フ所ヨアリ聖體親ラ稼穡ノ
艱難ヲ知ロシ召サレ疾ニ内務省中ニ勸農局ヲ置キ各
府縣廳ニ勸業課ヲ設ケラレ専ラ此業ヲシテ擴張ナラシ
メント欲シ賜ヘリ然リト雖モ如何ニヤ人智斯ニ進マス資力
限リアリテ未タ其著シキ大効ヲ奏スルニ至ラス今ヤ國家
多事財政困難ノ秋ニ際シ荏苒歲月ヲ經ハ恐クハ將ニ
上下交々困難ノ域ニ陷ラントス鄙輩竊ニ慨歎ニ堪ヘサル
所ヨアリ因テ各地方ノ有志者ニ計リ人民協同シカヲ以テ

國家ニ對スルノ義務ヲ盡サント欲シ茲ニ勸農義社ヲ創
立シテ其精神ヲ團結シ相誓テ勉強節儉ヲ主義トシ
各自應分ノ資財ヲ醵集シ大ニ農業上ニ改良ヲ施コシ
續井テ内地ノ荒蕪地ヲ開墾シ患難相救ヒ貧富相援ケ
士庶ヲ論ヤス専ラ就産ノ道ヲ開キ他日歐米各國ト峙
立スル基本ヲ立テ以テ國家ニ報スルアラントラ欲ス之レニ
依テ別紙概則及ヒ請願書ヲ相添ヘ敢テ以テ進呈ス希
クハ政府宜シク鄙輩ノ微衷ヲ明察シ速カニ許可アラシ

誠恐誠惶頓首謹言

右惣代

東京府下日本橋區
新右衛門町

川村傳衛

同

同府下同區

蛸壳町二丁目番地

藤田一郎

明治三十四年三月

請願書

一抑モコノ大日本勸農義社ナルモノハ概則第六條ノ主義ヲ以テ

東京ヲシテ軌軸ノ社トシ本社ノ名
稱ニ非ス各地方同盟者ノ興起スルニ

隨ヒ順漸各地ニ設立シ遂ニ全國ニ及ホスヲ以テ目的トス

但沖繩縣及北海道ヲ除ク

一右資本金ハ概則第八條第九條ノ主義ヲ以テ各有志者ノ

國家ニ對スル義務上ヨリ義集スルモノニシテ今日豫メ其

定額ヲ見上スルヲ能ハス

一右資本金運轉ノ儀ニ至テハ鄙輩頗フル困難ヲ極ム如何ニ

トナレハ本社ノ事業タルヤ概則第二十九條第一部第二部ノ

業務ニシテ何レモ事業者ニ貸付シ年三米ヨリ輕カラス一割ヨリ

多カラサルノ薄利ヲ以テシ又其事情ニ依リ無利子貸付モ

ハント欲ス然ル時ハ義集金々主へ配當スル利朱ノ生スル
術ナク獨リ配當純益ノ無キノミナラス創立五六年ノ如キハ
動モスレハ元々トヲ消耗スルノ患ヒアラント欲ス之レニ依テ希
クハ我

賢明至ニル政府實ニ非常ノ特典ヲ以テ右資本金利ヲ
即チ年一割宛十五ヶ年間補助シ賜ハラントラ若レコノ
事ヲレテ許可シ賜ハ、我同盟社貞實ニ畢生ノ力ヲ盡シ
益義後ヲ募集シ誓テ非常ノ大効ヲ奏シ
鴻恩方分ニ報シ奉ラント欲ス鄙輩只管奉請願候也

大日本勸農義社概則

第一章

社ノ主義

第一條 本社ハ農事振興ノ勸奨ヲ本旨トス

第二條 本社ハ直接ノ事業ヲナサス起業者ノ資力ヲ補

成スヘキ貸付金ヲナス

但時宜ニ因リ第二十九條第二部ノ業務ヲ直接ニ執行

スルヲアルヘシ

第三條 本社ハ補助金ヲ貸與シタル事業者ニ對シ補助

金貸與中ハ其事業ヲ監督スルノ権利ヲ有スルモノトス

第二章

社ノ年限

第四條 本社ハ農事ト關ニ永遠繼續スルモノトス

但初年ヨリ十五ヶ年間ヲ以テ第一期トス順次之レニ

做フヘシ

第五條 社員ノ退社義集金ノ割返シハ詠期ノ終ニトス
モノトス

但入社及ヒ義捐金義集金ノ増加ハ期中有志者ノ随意
タルヘシ

第三章

社ノ位置

第六條 本社ハ同盟社員ノ興起スルニ随ヒ漸ク盛大ナ
ラシノ其東京ニ置クモノヲ東京勸農義社ト稱シ各地方

ニ設クルモノヲ某^{地名ヲ}勸農義社ト稱ス
第七條 此社則ノ要領ニ背馳セサル以上ハ各地其適宜

ニ斟酌シタル細則ヲ設クルヲ得ヘシ
第四章
資本ノ性質

第八條 本社ノ資本金ハ有志者ノ義捐金及ヒ義集金ト

ニ成リ各社其經濟ヲ異ニス
第九條 義捐金ハ多少ヲ論セス之レヲ納レ領收券ヲ發

シ義集金ハ一口拾圓ト定メ證券^{記名無}ヲ發行ス毎年一
月七月會議ヲ開キ會計ヲ詳報シ義捐金ハ之レヲ永久社

金トシ義集金ハ純益金ヲ其證券金高ニ配當スル者トス
但義集證券讓渡及ヒ賣買ハ券主ノ意見ニ任ス

第五章

社員ノ性質

第十條 本社ハ誰人ヲ問ハス苟モ邦本ヲ鞏固ナラシム
ルニ熱心シ社則ニ從ヒ應分ノ義務ヲ盡サントスル者ハ

悉ク社員タルヲ得然レニ義捐金五圓以上及ヒ義集金拾
圓以上ヲ出セル社員ニ非ラサレハ第廿二條第廿三條ノ

推利ヲ有セサルモノトス
但單ニ義捐金ヲ出スニ止マリ其出金五圓以上ノ者ハ
之レヲ贊成社員ト稱ス

第六章

役員并職員撰擧

第十一條 本社役員及ヒ其職務ヲ定ムル左ノ如シ

社長

壹人

本社ノ役員ヲ統轄シ規則ニ從テ社務ヲ總理シ百
般其責ニ任ス

幹事補以下ノ進退ヲ專行ス

議案ヲ議負ニ附ス

副社長

壹人

社務ヲ判断シ其責社長ニ亞ク

幹事

自一等至三等事務ノ繁閑ニ應シ増減ス

社長ノ分課ニ應シ業務ヲ幹理ス

幹事補

自一等至五等事務ノ繁閑ニ應シ増減ス

幹事ヲ助ケ其及ハサルヲ贊補ス

主計何名 幹事中ヨリ撰定スヘシ

會計ヲ司リ出納ヲ詳明ニシ定期決算書ヲ調成ス

筆算生何名

事務ノ繁閑ニ應シ増減ス

社長ノ命ヲ奉シ分課ニ從テ筆算ヲ事トス

第十二條

社長副社長幹事主計ヲ撰擧スルニハ投票多

數ヲ以テ幹事補以下筆算生ハ社長ノ特撰ニ採ル

第十三條

本社役員ハ兩五年ヲ任期トシ毎半期其半ヲ

改撰ス

第七章

會議并議員選舉

第十四條 社員中ヨリ 議員ヲ 選舉ス 議員ハ 會議ヲ 開テ 業務ノ 得失ヲ 議定ス

第十五條 議員中ヨリ 復選シテ 若干名ノ 常議員ヲ 撰定ス

第十六條 常會議ハ 會計出納ノ 報告書ヲ 検査ス

第十七條 議案ハ 社長之レヲ 散ス 但議員中 建議案アル 時ハ 五名以上ノ 賛成者ヲ 得之レラ 議題トナスヲ 得

第十八條 會議ニ 常會アリ 臨時會アリ 議員ニ 常議員アリ 議員アリ 期ヲ 定メテ 會スルヲ 常會トシ 不時ニ 會スルヲ 臨時會トス 常會ハ 總議員會同シ 臨時會ハ 常議員會同ス

第十九條 議員ハ 若干名ヲ 以テ 定員トシ 常議員ハ 若干名ヲ 以テ 定員トス

第二十條 議員ノ 選舉組合ヲ 定メ 投票ヲ 以テ 撰定ス 議員ニ 常議員共 滿五ヶ年ヲ 一期トシ 毎半期 其半數ヲ 改撰ス 當初半期ノ 解任ハ 抽籤ニ 依ルヘシ

但議員 常議員共 再撰セラル、ヲ 得

第二一條 會議ハ 社長之レカ 議長タルヘシ

第八章 社員ノ 推利責任

第二二條 社員及ヒ 賛成社員ハ 本社ノ 後負議員ヲ 撰被 撰推ヲ 有ス

第二三條 社員及ヒ 賛成社員ハ 何時ニテモ 會計出納ノ 帳簿ヲ 閱覽スルヲ 得ヘシ

第廿四條 義捐金千圓以上差出シタル賛成社員及ヒ義
集金二千圓以上ノ證券ヲ有スル社員ハ臨時會ヲ請求ス
ルノ權ヲ有ス

第廿五條 一人ニシテ義集金五十圓以上ノ證券ヲ有ス
ル社員二十名以上連署スルトキハ臨時會ヲ請求スルノ
權ヲ有ス

第廿六條 義捐金二十圓以上出セル賛成社員ハ義集金
五十圓ノ證券ヲ有スル社員ハ其推利ヲ均フス

第廿七條 本社ノ員ハ有限責任トシ本社萬一ノ損失ア
ル共義集金ニ止リ各自ノ他ノ財産ニ及ハサルモノトス

第九章

第廿八條 本社ノ業務ハ實地ノ得失緩急ヲ考量シ其緊
急ノ業務

要ナルモノヲ先トシ漸次其資力ヲ補助スヘシ
第廿九條 事業ノ部門ヲ分テ左ノ數類トス

第一部

第一類

荒地起復原野開墾

第二類

牧畜

第三類

種子苗木ノ選擇及配付

第四類

桑茶及有益著大ナル植物ノ栽培

第五類

溝洫樋堰溜池ノ修理

第六類

農法ノ改良肥料ノ製造

第七類

肥料及農牛馬買入

第八類

製茶製糖絹綿ノ紡績并ニ機織

第九類

養魚植貝捕魚採藻

第十類

山木栽植

第十一類

第一類ニ係ル道路橋梁及堤防排水

第二部

第一類

農學生徒教育

第二類

内外農事通信

第三類

農業雜誌及報告

第四類

農具製作

第五類

農學舍容

第六類

農談會及共進會

第七類

精農賞與

第三十條 第廿九條ニ属スル各類ノ業務ヲナスモノハ
八年三朱ヨリ輕カラス一割ヨリ重カラサル低利ヲ以テ

貸付金ヲ行フニ若シ或ハ利未ヲ附シ難キ事業ト認ム

ルモノハ無利足貸付ヲ行フアルヘシ俣ニ不動産耕地 宅地

及ヒ公債證書ノ抵當ヲ徵スヘシ

但資本金ノ都々ニ依リ貸金ノ多寡ト前後トテ定ムル

ハ第廿八條ノ旨ニ從フ

第卅一條 第廿九條ノ貸付金ハ二種ニ分テ其一種ハ年

賦償還ノ法ヲ設ケ其一種ハ定期償還ノ法ニ因リ俣ニ其

證書ハ普通ノ法ニ據ルモノヲ徵スヘシ

第卅二條 本社ニ於テ施行セル業務一切ノ景況及ヒ諸

決算ハ毎歲十二月六月兩度ニ之レテ調成シ常會議ヲ開

ヒテ議負ノ檢査ヲ了シ之レテ社員ニ報告スヘシ

